

情報通信審議会 情報通信技術分科会
移動通信システム委員会（第6回）議事録（案）

1 日時

平成24年1月20日（金） 11:00～12:00

2 場所

中央合同庁舎第7号館西館14階 共用会議室-2（1415）

3 出席者（敬称略）

主 査 : 安藤 真

主査代理 : 門脇 直人

専門委員 : 飯塚 留美、伊藤 数子、川嶋 弘尚、伊藤 泰宏、小林 久美子、
丹羽 一夫、本多 美雄、松尾 綾子、宮内 瞭一、若尾 正義

関係者 : 高田 仁、田邊 和弘、曾根高 則義

事務局（総務省）: 田原移動通信課長、星野課長補佐

4 配付資料

資料5-1 移動通信システム委員会第4回議事録（案）

資料5-2 特定ラジオマイクの概要

資料5-3 周波数再編アクションプラン（700・900再編抜粋版）

資料5-4 「特定ラジオマイクの周波数移行等に係る技術的条件」に関する調査の進め方（案）

資料5-5-1 特定ラジオマイク作業班運営方針（案）

資料5-5-2 特定ラジオマイク作業班構成員（案）

参考資料1 ラジオマイクの種類表

参考資料2 周波数再編アクションプラン（平成23年9月改定版）

参考資料3 各周波数区分における具体的取組

参考資料4 年内スケジュール

参考資料5 ホワイトスペース利用システムの共用方針（案）

5 議事

(1) 第4回移動通信システム委員会議事録（案）

事務局から資料5-1に基づき説明が行われ、意見がある場合には1月27日（金）までに事務局あてに連絡することとし、了承された。

(2) 特定ラジオマイクの周波数移行等の審議開始

事務局から資料5-2、5-3、5-4に基づき特定ラジオマイクの周波数移行等の審議開始の経緯、調査の進め方について説明が行われ、了承された。

主な質疑等は、以下のとおり。

- 高田氏 一月下旬の意見募集についてももう少し詳しく教えてほしい。
- 高田氏 意見募集については、2月の委員会で、意見聴取の場を設けたいと思っている。ご意見を頂くのは、小電力システム全般ではなく、特定ラジオマイクの周波数移行等に関する部分を中心に伺う。
- 高田氏 テレビホワイトスペースの方へ特定ラジオマイクが移動するという
ことで、テレビ放送との共用条件の検討がメインになると考えられる。
短期間にまとめるということで、情報通信審議会の放送システム委員
会でエリア放送型システムと地上テレビ放送との共用条件を審議して
おり技術的条件がもうすぐ確定する段階にある。
その審議はIN基準という国際的なITU-R勧告をベースに共用条件が審
議されているので、それらの結果も参考に、こちらの審議も進めてほ
しい。エリア放送型システムは固定だが、特定ラジオマイクは移動す
るのでそういった免許条件を含めて慎重な審議が必要である。
- 安藤主査 確かに重要である。現在一次業務である、特定ラジオマイクを移行す
るということは、それなりの環境を求めて移行させるということにな
る。テレビホワイトスペースにはこれからも、様々な無線局が入って
くる可能性があるので、重み付けをしながら慎重な審議が必要。
- 事務局 了。
短期間での検討ということで、現在、総務省では、技術試験事務とし
て、周波数移行に関する調査検討を行っている。2月ごろにとりまと
めが行われるので、それらを参考にして作業班で調査、審議して頂き
たいと思っている。
- 安藤主査 また、ご指摘の点についても、十分審議頂きたい。
- 安藤主査 スケジュールで、4月に一部答申とりまとめとあり、夏頃に、テレビ
ホワイトスペース利用システム相互間の共用条件案検討とあるが、エ
リアワンセグとの共用条件の検討はここで行うのか。
- 事務局 そのとおり。
テレビホワイトスペース利用システム相互間については、夏頃にご審
議頂きたいと考えている。
- 安藤主査 了。
- 事務局 一部答申については、それらを意識し、問題の生じないようにしない
といけないということか。
- 事務局 まずは、移行する周波数帯での必要な技術的条件をご審議頂くとい
うこと。
次に、テレビホワイトスペースを利用する無線局相互間（エリア放送
型システム、センサーネットワーク、ロボット等）も検討が進んでい
るので、それらを含めてシステム相互間の共用条件をご審議頂きたい。
2ヶ月ぐらいの間に4回作業班があるが、アクションプラン作成時に、
関係してこれらの下準備というか検討はされているのか。まったくの
白紙であると大変な作業になると思うが。
- 安藤主査 移行に関する技術的条件、共用条件等については、技術試験事務とし
て契約を行い、検討を行っている。
- 事務局 了。
- 安藤主査 急ぎのスケジューリングになっているが、これは何か急がないといけ
ないニーズがあるのか、それともこれをやらないと下が過密状態にな

- るから急ぐのか。
- 事務局 700/900MHz 帯の再編を2年前から議論し、900MHz 帯の電子タグを先行した。900MHz 帯については現在、事業者の選定を進めている。700MHz 帯については、別のバンドに移行するので技術的条件をつめておかないといけないだろうということで技術試験事務をしている。
- 急ぐ理由は、携帯電話の周波数が足りないということで、周波数再編をしているが、700MHz 帯についても900MHz 帯と同様に進めていきたいということ。夏頃の制度化を考えると、春には技術的条件を決めて頂きたいということ。制度、割当てが決まっても、すぐにはモノはできないので、技術的条件をなるべく早く答申して頂きたい。
- ラジオマイクそのものというよりは、周辺の状況からこのようなスケジュールになっている。
- 川嶋委員 了。
- 丹羽委員 今回の検討に1.2GHz も入っており、FPU のほうにも1.2GHz、2.3GHz と書いてあるが、一緒に検討しておこうということか。
- 事務局 テレビホワイトスペースに収まりきらない、または使いにくいという場合については、1.2GHz 帯も使っていく形態が考えられることから、両方を検討して頂きたいということ。
- 丹羽委員 了。
- 飯塚委員 こちらで審議されるものとは違うと思うが、一般に米国や英国でテレビホワイトスペースを活用するときには、基地局（放送システムの親局）、中継局等をデータベース化して、そこを参照しながら干渉を回避するシステム作りが進められていると認識しているが、日本でもそのようなシステム作りが同時に進められていると認識してよろしいか。
- 事務局 テレビホワイトスペースについては参考資料5に記載があり、共用方針について12月26日にパブリックコメントが募集されている。
- P.12に共用のための方策がまとめてある。優先順位が一番高いのが地上デジタルテレビジョン放送、二番目に特定ラジオマイクの割当ての順位ということになっている。
- 特定ラジオマイクは周波数の移行という観点から、優先的な使用が必要ではないかということである。三番目にエリア放送型システムあるいはセンサーネットワーク等が入っている。特定ラジオマイクは、テレビジョン放送よりは低い優先順位だが、他のシステムよりは優先的に割り当てるということになっている。(2)に共用するために必要な運用調整の仕組みということで、まとめてあるが、運用調整機関を今年に検討し、米国等でデータベースの構築というのが進められているが、そういう仕組みを参考にしながら、共用するためにどのようにするのか、テレビホワイトスペースのチャンネルをどのように見いだしていくのか、地デジの受信に障害を与えないようにするためには、どのような調整が必要か等について、今年の春頃から検討したいと思っている。そういう意味では、データベースを構築するという手法もその内に含まれるのかもしれないが、それは今後の検討という状況である。
- 飯塚委員 了。
- 丹羽委員 1.2GHz 帯も検討対象にはいるとのことだが、1.2GHz 帯にはアマチュアバンドがあり、特定ラジオマイク作業班のメンバーにアマチュア無線

関係者がいないことから、アマチュア無線とは共用は無いと思っ
てよろしいか。もし、共用があるのであれば、ここに関係者を
入れておいたほうがいいのではないか。

事務局
安藤主査

ご指摘のとおり、もし、共用するのであれば考慮する。

ホワイトスペースの関係では、これから様々な新しい形の議
論が出てくるだろう。

作業班のペースが大変だと思うが、よろしくお願
いしたい。

(3) 特定ラジオマイク作業班の設置及び主任・主任代理の指名

事務局から資料 5-5-1、5-5-2 に基づき説明が行われ、主査から主任に若尾専門委員、主任代理に宮内専門委員が指名され、了承された。

また、2月17日開催の情報通信審議会情報通信技術分科会に特定ラジオマイクの周波数移行等の検討開始の報告を行うこととなった。

(4) その他

事務局から、参考資料4に基づき、本委員会の年内スケジュール(想定)の説明が行われた。

また、次回の委員会開催は、2月17日(金)16時30分を予定している旨の連絡があった。